

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所 グループホーム やわらぎ

日付 平成19年2月27日
評価機関 特定非営利活動法人
 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験18年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

秋晴れの中、大勢の利用者と職員が玄関前の広場に出て賑わっている。初対面の私達ににこやかに挨拶してくれる。「遠慮なく入って下さい。ここは我が家だから」と利用者が声をかけてくれた。間もなく向かいにある幼稚園の祭りの行列がやって来た。みんなこれを待っていたのだ。園児の挨拶と利用者たちの拍手。通りがかった近所のお年寄も利用者と一緒に話していく。玄関を開放し訪問者も利用者もいつでも出入り自由という開放感がある。グループホームが地域に溶け込んだ自然な交流をしているようだ。

日常生活でも自由気ままに利用者それぞれが気に入った居場所で好きな事をする。通りに面したテラスで新聞を読む人、居室で休む人、リビングルームでお喋りする人等自由に過ごしている。職員は個別の対応を心がけ、利用者それぞれに合った声かけ、見守り、寄り添い等をしている。また、利用者のありのままを受け止めて明るく対応する事で、ホームの雰囲気を楽しくしようとしている。利用者同士の会話を見守りながら、口争いも適当な距離がある限り楽しい光景として捉えている。食後の片付けは洗い物まで自分でする等、出来ることをするのも習慣と鳴っている。

職員は意見交換しながら、意欲的により良いケアを目指しており、事業主も社会貢献としてサービスの向上や地域との交流を支援している。今後は、精神面の支援内容について更に研鑽を深め、利用者の経歴や本音の希望などを更に十分に聞き出し、取り組めることを探り出してあげ、充実した生活を送ってもらえるようにするために、一層努力して欲しい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

個別のケアとして、一人ひとりの現状把握や課題の抽出はできていないが、その支援内容として、経歴や体験また本音の希望など十分なアセスメントを行い、日常取り組めることを、特に男性に対して見つけてあげて欲しい。

記録類は詳しくきちんと整理されているが、記録の様式は試行錯誤改善を重ねているが、まだ読み返しに苦労すると思う。計画見直し時のモニタリング、問題発生時に過去を見直す、新任職員が利用者の事を知るなど、記録の見直しはいつも必要と考える。精神面、生活面、言動等に分けて、キーワードの記入や箇条書き等にする、重要事項にはアンダーラインを入れる等して分かり易い記録に出来るよう検討を続けてもらいたい。

利用者の積極的な活動を促すために、話題の材料となる掲示物や写真、楽しめる本やゲーム、筆記具や工作材料等をリビングに用意したり、身体を動かせる利用者同士で軽い体操をしたりするのも良いのではないだろうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

利用者の認知症が重度化し、全員が揃って行動する事が難しくなり、個別の対応が重要になってくるので、利用者一人ひとりの状態を把握する事が重要となってくる。特に目に見える障害よりは、内面に秘めた障害をどのように察知するかが重要となる。
 その人の気持ちや希望をどのように受け止めるか、判別や想像が出来難くなった人には、こちらから選択できる事例を多く発信して、どれに反応するかによって、その人の気持ちを察する以外に方法はないと想定しておかねばならない。介護計画に反映させる情報のアセスメントや介護項目を決めるための原因分析が更に必要になってくる。このような状態を出来るだけ避けるための予防措置として、利用者が納得した上で取り組める作品作りや花づくり等をする“きっかけづくり”を工夫して、精神的リハビリも加えながら生活していく必要もあるかと考えます。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か

社会貢献を目的に開設したグループホームであり、地域の人に喜んでもらえるホームとなることを目指している。ホームが地域からの支援をうけるだけでなく、地域との相互協力に力を入れて、地域の人も気軽に訪問でき、地域に溶け込んだホーム、地域の人に役立つホームになるよう努力している。

古くからの街と思える町内会との協力や向かいの幼稚園との交流を大切にしていることは、利用者の生活にも潤いをもたらさし、また逆に、地域にとっても憩いの場、また認知症の相談も気軽にできる拠点となっていくのではないかとと思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か

自分の家で過ごしている時のように、自由にしたいことが出来るように支援することを目指している。利用者それぞれの希望や能力に合わせた個別の対応を心がけ、身体ケアをそれとなくこなしながら、話題の提供、声かけ、見守り、寄り添いなどを行っている。また、自分でできることは自分でできるように習慣づけ、励ましている。また、玄関を開放し、地域との自然な交流を大切に、利用者の生活にも楽しみをもたらしている。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

個人の自由を尊重する為に、玄関内外に椅子を並べ、リビングにはソファや畳台、ベランダにテーブルと椅子を置くなど自由に選べる居場所を設けている。通りに面した玄関ドアを開放することで、利用者の行動の自由が尊重されるが、来訪者も気軽に出入りでき、自然な地域交流ができる。幼稚園やスーパーなど周辺施設も楽しみとして度々訪れる。ホームの庭を利用者の活動の場として活かす事ができると更に嬉しい。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		